和歌山　人・もの・地域

和

nagomi

Vol.33
2017

特集

美しき国、和歌山

Landscapes who loved wakayama

知事対談 内山りゅう×仁坂吉伸
Awesome Products in Wakayama［蚊取り線香］
People × Gourmet（辻の餅）
News topic （南方熊楠記念館）
わかやまに恋した人々（田辺市龍神村）
プレミア和歌山（一六一八 実 -minori-）

密教の代表的な修法のひとつ護摩供。神聖で荘厳な美しい所作は、
弘法大師・空海が伝えた1200年前から変わらない。

南方熊楠生誕150周年

特集

美しき風土、和歌山

Landscapes who loved wakayama

複雑に交差する風。雲立つ嶺々の向こう側。
熊楠が愛し、保護した熊野の自然。
そして空海が夢見た高野の姿。
神々が宿る自然と人々の息吹を感じる歴史。
それらは互いに影響を与えながら、また受けながら、存在を認めあう。
その景観は、絶景という言葉だけでは語れない美しさに満ちている。
人々と自然が分離されることのない美しい国、和歌山へ

高野山へと向かう道から見た景色。

知の巨人、南方熊楠が愛した景色には生命が満ちていた

和歌山市に生まれ、田辺市で晩年を過ごした南方熊楠。日本を代表する博物学者であり植物学や天文学、語学にもその才能を発揮し、民俗学者柳田國男をして〝日本人の可能性の極限〟と言わしめた〝知の巨人〟である。幼少期よりそのずば抜けた才能は目立ち、当時の百科事典にあたる〝和漢三才図会〟や、〝本草綱目〟などをまるでコピーのように正確に筆写した逸話は有名である。また好奇心が旺盛で、植物採集に熱中し過ぎたあまり、山中で行方不明になり天狗にさらわれたと噂されたこともあったという。

教室で学ぶ学問が合わず、現在の東京大学を自主退学した熊楠は、実家に相当な無理をいって渡米。サーカス団などに身を置きながら世界各地を巡り、大英博物館で働き、科学雑誌〝ネイチャー〟に論文を多数寄稿した。世界中を旅したそんな熊楠が終生のフィールドワークの場に選んだのは、生命の宝庫〝熊野〟であった。熊楠にとってそこはまさしく宝の山。キノコや変形菌（粘菌）類の採集・研究のため、野宿などをしながら野山を駆け回った。

黄泉の国への入り口とも、モノノケが棲む山々ともいわれる熊野は、日本人の精神世界の原点ともいえる場所。見渡す限り連なる山々は〝熊野三千六百峰〟と称され、熊楠自身も那智山の原始林の中で〝ダル〟と呼ばれる妖怪に取り憑かれたこともあったという。山々の遥か向こう側に陽が落ちると、森は少しざわめきだす。モノノケたちが目覚める時刻である。

進献標本が入れられていたキャラメル箱と同型のもの。

写真：南方熊楠顕彰館（田辺市）

超天才・南方熊楠とは

熊楠の有名な逸話といえば、1929年に昭和天皇に献上した標本入りのキャラメル箱。田辺湾の神島に行幸された際、熊楠は変形菌や海中生物について御前講義を行い、標本を献上したのがキャラメル箱だったという。かねてより熊楠の一風変わった人物像が伝えられていたのでことなきを得たが、昭和天皇は「あの衝撃は忘れられない」と語ったという。後年の熊楠は18ヶ国語を操ったといわれ、〝ロンドン抜書〟でも、英語をはじめスペイン語や仏・独・伊語など８種類の言語で書かれていたという。

晩年の25年を過ごした顕彰館に隣接する旧南方邸。明るい縁側に座り顕微鏡を覗いていたという。当時の記録に基づき忠実に再現された庭には、変形菌の新種〝ミナカテルラ・ロンギフィラ〟を発見した柿の木も。

南方熊楠顕彰館
住所／田辺市中屋敷町36　電話／0739-26-9909

元の姿を取り戻しつつある神々が談笑する円座石（わろうだいし）

熊野古道の難所として知られる〝大雲取越〟。その道沿いに鎮座する〝円座石〟を覆っていたコケが、ほぼなくなっていたと報道されたのが2015年。全体が不自然に剥げ落ち、人為的にはぎ取られた可能性が高いとされた。採取に罰則などがない区域だが、神秘的で神聖な場所ゆえ、ショックも大きかったが、熊野の自然のパワーは絶大。元に戻るまで５年はかかるだろうといわれていたが、２年経った今では随分とその姿を再生しつつある。

Landscapes who loved wakayama

百間ぐらからの景色＞熊野三千六百峰。その言葉通り目の前には見渡す限り山々が連なる。この遥か向こうにあるのは、京の都か、あの世か？熊楠はこの景色の向こうに何を見たのだろうか。

那智原始林＞熊楠が研究の為に立ち入った原始林。数百年数千年、それ以上にも及ぶ生命の営みは、それ自身が神々しい。

Landscapes who loved wakayama

日本ではじめて エコロジーを唱えた熊楠が守り通したモノとは

神島（かしま）＞昭和4年、昭和天皇が変形菌採集をし、その後御召艦で熊楠が御前講義をおこなった。国の天然記念物で上陸不可。

野中の一方杉＞熊野古道継桜王子社の境内にある杉の巨木。
全ての枝が那智山の方角を指しているご神木。

南方熊楠の林中裸像＞森林伐採に反対するために撮影された写真。寒中の1月に裸で撮影されたのは、彼なりの強烈なパフォーマンスであったといわれている。（西牟婁郡上富田町で撮影）

写真：南方熊楠顕彰館（田辺市）

日本の原風景をシンボリックにささえる〝鎮守の森〟。明治以前は集落ごとに大小さまざまな神社があり、それぞれに鎮守の森があった。みだりには入れないが、必要な手入れは地域住民が行う。それがコミュニティーを健全に保ってきたという側面もあった。しかし明治の神社合祀令により、古来から存在する神聖な森は、大打撃を受けることとなる。

それに敢然と立ち向かったのが南方熊楠だ。熊楠にとって植物や変形菌（粘菌）を研究するフィールドが破壊されることは、堪え難いことであったに違いない。しかし熊楠の思いはそんな単純なものではなかった。人々の寄合の場である神社が取り壊されることで宗教心が衰え、連帯感が薄れコミュニティーが崩壊する。森の消滅で鳥たちは棲息する場を失い、天敵を失った害虫が殖え、農産物に害を与え、農家は生きていけなくなる。こうした神社合祀による複雑な負の連鎖を、自然破壊だけに留まらず人間を含めた生態系の危機としてとらえていた。現代ではエコロジーと呼ばれるこういった概念を、〝エコロギー〟として100年以上前に日本ではじめて説いたのも熊楠である。顕微鏡を通して見つめる変形菌などのミクロな世界。そしてその向こうにある生態系というマクロな世界を憂える。熊楠の卓越したその思考に改めて驚かされる。

熊野古道沿いの巨木、老木や中辺路にある野中の一方杉、生物学上珍しい植物が繁茂する田辺湾の神島など、熊楠によって守られた和歌山の自然は多い。そこには熊楠の思いと共に貴重な動植物が今もいきいきと生きている。そこは、地域で暮らす人々の、心の拠り所でもある。

熊楠の業績を伝える記念館

没後、遺族から資料の寄贈を受け、熊楠の偉大な業績と文献、標本類等を保存し、公開している記念館。生誕150年を記念しリニューアルオープンした。（P19参照）

南方熊楠記念館
住所／西牟婁郡白浜町3601-1
電話／0739-42-2872

遥か天空に広がる高野の地に弘法大師・空海は何を見たのか

標高約８百㍍の天空の聖地、高野山。周囲を千㍍級の山々に囲まれた山上盆地であるが、高野山という山がある訳ではない。麓から山上を伺うことはできず、また山上から麓の明かりが見えることも無い。俗世界と隔絶し人跡まれなこの幽寂な地に、空海は真言密教の修行道場を開いた。また唐からの帰国の際、明州の浜辺から三鈷を日本に向けて投げ、高野山の松の木に三鈷がかかっているのを見つけこの地を伽藍建立の場所にしたという伝説も残されている。

高野山を開創するにあたり、最初に着手したのが、根本大塔や金堂などが建つ壇上伽藍である。これら塔堂の配置は、胎蔵曼荼羅の世界を立体的に表現しているという。根本大塔とは真言密教の根本道場にあけるシンボルであり、空海と真然大徳（しんぜんだいとく）二代を費やし完成され、多宝塔様式としては日本最初のものといわれているが、空海はその完成を見ることはなかった。

奥之院は壇上伽藍と並び、高野山の信仰の中心であり、空海が今も深い禅定に入っているとされる聖域。樹齢千年にも及ぶ杉木立の中を歩く参道沿いには、おおよそ20万基を超える諸大名の墓石や慰霊碑が立ち並んでいる。高野山は〝一山境内地〟といい、いわばひとつの大きなお寺であることを意味する。境内を歩いていると、必ずどこからともなく読経の声が聞こえてくる。そこは空海が望んだ、宗派の差も敵味方もない、平和な世界である。

夏なお涼しい高野山。約１２００年前、ここに辿り着いた空海が見た空も、青かったのだろうか。

根本大塔内＞中央に鎮座するのは、胎蔵界の大日如来。周りには金剛界の四仏が取り囲み堂内そのものが立体の曼荼羅として構成している。金胎不二という空海の教えを伝える。

奥之院参道＞約20万基を越える墓石や祈念碑、慰霊碑の数々が建つ約2キロメートルの参道。その信仰の道の辿り着く先は、入定信仰を持つ弘法大師空海の御廟である。

壇上伽藍での読経＞壇上伽藍に点在する堂宇ひとつひとつに手を合わせ読経の声を合わせる僧侶たち。足早に移動するその所作には一切の無駄が無く、美しい。

弘法大師坐像（萬日大師）＞室町から桃山時代に作られた（金剛峯寺蔵）。弘法大師とは空海の諡号で醍醐天皇から高徳をしのんで贈られた。

文化百景

Landscapes who loved wakayama

新宮市・ゴトビキ岩

田辺市本宮町～新宮市・熊野川

神となった自然

熊野信仰の基層にある自然崇拝。大いなる自然が与えてくれる恵みは神々しくもあり、時には畏怖せざるを得ない存在である。急峻な山々に樹々が生い茂る熊野は、人々は容易く近づけない。山や川、滝や巨岩、そして樹木など、熊野の自然と神の境界は混沌としている。

那智勝浦町・那智の滝

有田川町清水・あらぎ島

湯浅町・重要伝統的建造物群保存地区

祝 日本遺産認定

人々と寄り添う景観

人々の生活が築いた景観も和歌山の魅力である。湯浅町の重要伝統的建造物群保存地区は、熊野三山へと続く熊野古道の宿場町で、醤油醸造発祥の地として栄えた歴史や伝統のストーリーが、今年〝日本遺産〟に認定された。有田川町清水のあらぎ島は、江戸初期に開拓され、日本の棚田百選にも選ばれている。

万葉集に詠われた景観

祝 日本遺産認定

和歌山市の南西部に位置する和歌の浦は、万葉集にも詠まれた古からの景勝地として知られる。多くの文化芸術を育んできたこの和歌の浦に関するストーリーが、今年、〝日本遺産〟に認定された。山部宿祢赤人（やまべのすくねあかひと）が詠んだ〝若の浦に 潮満ち来れば 潟をなみ 葦辺をさして 鶴鳴き渡る〟という和歌はあまりにも有名。

和歌山市・和歌浦

バリエーションに富んだ和歌山の自然が描く絶景。
しかし魅力はそれだけではない。
神となり、人々の生活を描き、共に歴史を重ねてきた景観。
途方もない時間の中で、そうあり続けた風景。
和歌山の自然には文化が宿っている。

串本町・橋杭岩（火成岩体）

大地の営みにより つくられた景観

和歌山県紀南地方の９市町村（新宮市・白浜町・上富田町・すさみ町・那智勝浦町・太地町・古座川町・北山村・串本町）と奈良県十津川村の一部は南紀熊野ジオパークとして認定されており、プレートの沈み込みに伴って生み出された異なる３つの地質体（付加体、前弧海盆堆積体、火成岩体）が作る独特の景観や歴史文化を楽しむことができる。

南紀熊野ジオパーク推進協議会
（和歌山県 自然環境室内）
住所／和歌山市小松原通1-1　電話／073-441-2780

すさみ町・フェニックス褶曲（付加体）

白浜町・千畳敷（前弧海盆堆積体）

すさみ町・枯木灘

❶

❷

〝枯木灘（1977年）〟の続編として〝地の果て至上の時〟があり、三部作を構成する。〝紀ノ川（1959年）〟はテレビや映画など映像化もされた話題作。

❶枯木灘／中上健次／河出書房新社刊
❷紀ノ川／有吉佐和子／新潮文庫刊

橋本市～和歌山市・紀の川

小説に描かれた景色

和歌山を舞台にした小説は数多くあるが、なかでも有名なのは、中上健次（なかがみけんじ）の芥川龍之介賞受賞作〝岬〟の続編にあたる〝枯木灘〟と、３人の女性の生涯を描いた有吉佐和子（ありよしさわこ）の〝紀ノ川〟。枯木灘は吉野熊野国立公園に指定された太平洋に面する岩石海岸。紀の川は、日本有数の多雨地帯である大台ヶ原を源流とし、紀伊水道に注ぐ大河。

知事対談

内山りゅう×仁坂吉伸

ネイチャーフォトグラファー　和歌山県知事

内山氏が水の美しさに感動し、移住するきっかけともなった東牟婁郡古座川町の渓流瀑の〝滝の拝〟。滝つぼに集まった鮎を餌やオトリも付けずに釣り上げる〝トントン釣り〟という漁法は夏の風物詩。南紀熊野ジオパークのジオサイトでもある。

仁坂知事（以下仁坂）●内山さんはネイチャーフォトグラファーとして、水に関わる生き物とその環境の撮影をライフワークとされ、淡水にこだわった図鑑や写真集などを多数発表し、テレビ番組の企画出演や講演活動など多方面で活躍されていますが、そのきっかけについてお聞かせください。

内山りゅう（以下内山）●僕は大学で水産学を学び、将来は魚の研究者か博物館のような所で生き物に携わる仕事に就きたいと考えていました。ある時、昔から尊敬していた桜井淳史（さくらいあつし）という一人の写真家と話をする機会に恵まれました。そこで「生き物に携わって生きていくのは研究だけじゃない。写真というものもあり、それを仕事にできるのかどうかは君次第だよ」と言われ、考えもしなかった視点にショックを感じたのを鮮明に覚えています。そして大学卒業後、北海道の摩周湖畔にあるアトリエのドアを叩き、桜井氏に弟子入り。師匠のアシスタントをしながら海外を回り、2年後には東京でフリーカメラマンとしてデビューすることになりました。

仁坂●研究者からカメラマンってかなりの方向転換ですね（笑）。しかしフリーでデビューといってもそんなに簡単ではなかったと思いますが。

内山●師匠は多くの写真集を出版していたので、そういった縁で仕事が得られたこともありました（笑）。最初の大きな仕事は、大学で学んだ淡水魚の知識が役に立ち、図鑑の編集をさせていただきました。

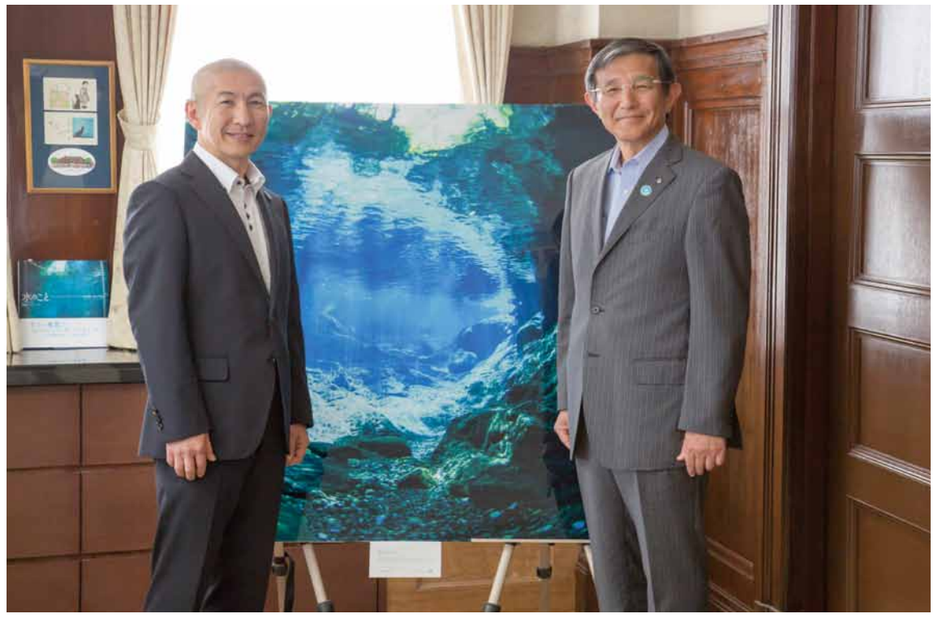
美しい水に導かれ和歌山への移住を決心

仁坂●1999年に東京から白浜町へ移住されていますが、なぜ和歌山に来られたのでしょうか？

内山●ひとつの生き物にこだわり、その背景にある自然や人などのストーリーが見えるような作品を、日本を代表する川魚である〝鮎〟で作ろうと思いました。日本各地で潜ったのですがなかなか納得できる水質の川には巡り会えませんでした。しかし和歌山に入った途端、水の色が変わったんですね。それが〝滝の拝〟でした。

仁坂●〝滝の拝〟は古座川の上流に位置し、今や和歌山を代表する清流のひとつです。

内山●もう30年も前になりますが、あの橋の上から眺めた水の色の美しさと魚の多さは今も覚えています。当時は東京で雑誌の仕事をしていたのですが、少しでも時間ができれば夜中にフェリーに飛び乗り、翌早朝には勝浦から古座川へ行き撮影をしていました。でも着いてみたら和歌山は土砂降りってことも度々あり、結局〝アユ〟を出版するまでに10年かかりました。



知事室にはお気に入りの内山りゅう氏のフォトパネルが飾られている。

和歌山で見つけた自然と生きる価値観

写真左／日置川源流域に位置する安川渓谷。水中から水面を覗くと〝本当の水色〟が見える。　写真右／滝の拝の水中を泳ぐ鮎。まるで空中を飛んでいるように見えるのは、抜群の透明度ゆえ。（写真／内山りゅう）

知事対談

内山りゅう×仁坂吉伸

ネイチャーフォトグラファー　和歌山県知事

までに約7年もかかってしまいました。カメラマンとしては、出版社が集中する東京にいる方が仕事的には絶対に有利です。しかし僕が撮りたいものは生き物であり自然であると考えた時に、東京に住んでいると効率が悪いのも事実。また和歌山の人たちは親切で心が温かいんですね。それで〝アユ〟の写真集を出版した翌年、妻を説得し一大決心をして移住を決めました。

仁坂●和歌山の人は温暖な気候のお陰なのか、誰でもウエルカムみたいなところがありますね。一度懐に入ってしまうと、さらに繋がりは深くなります(笑)。

内山●しかし最初は全く知り合いもなく、数年間は少し苦労しました。言葉も分からないし(笑)。「つれもていこら」って言われても何のことか全く分からなかったですね。でもしばらく住んでいると、多くの人が僕の仕事のことを理解してくれるようになり、色んな情報をいただけるようになりましたね。

仁坂●そして現在に至りますが、和歌山の自然について改めてどのような感想をお持ちでしょうか。

内山●海外も含めて色んな場所に行きますが、紀伊半島の自然は特殊でありながら、日本の原点みたいな場所だと思います。その上、水の清らかさはずば抜けていて、川を水中から見ると水面付近に青いラインが見えるんですね。これが見えるのは水が非常にピュアな証拠で、少しでも水に懸濁(けんだく)物質が溶け込んでいると、透明度が落ちて見えません。その青いラインを僕は本当の〝水色〟と言ってるんですが、それを探しに川に行ってるようなものです。世界中探してもそういう所が何箇所もあるのは和歌山以外にはめったにありません。

驚きあこがれる水の国わかやまの美しさ

仁坂●紀伊半島は雨量も多く、また地形的に中央部が高く全ての川が海に向かって放射線状に伸びています。それぞれの川はそれほど長くなく、程よい傾斜があることで水が淀みなく流れます。だから水は美しいのでしょう。またその綺麗な川に寄り添うように多くの人々が暮らしています。そこで醤油や酒の醸造から山椒をはじめとした様々な農産物の栽培、川の参詣道や筏下りという文化も形成しています。こうした水との関わりを持った生活や物語が多数存在します。それらを含め和歌山県は今、〝水の国、わかやま。〟という観光キャンペーンを大々的に行っています。内山さんも〝水のこと〟という写真集を出版され、キャンペーンの一環として写真展も各地で開催されています。

内山●今回東京で写真展を開催させていただき、多くの人に和歌山の水中を見ていただいたのですが、「これって日本なの?」とか「和歌山って凄い」とほとんどの人が驚いてくれます。ところがその話を地元の人たちに伝えても、ピンとこない方もいらっしゃいます。

変わりつつある価値観に和歌山を再認識する

仁坂●そんな都会の人たちにどんどん和歌山に来ていただきたいですね。また内山さんは子供たちへの教育の一環として観察会なども開催されています。

内山●各地で子供たちを対象に午前中にレクチャー、午後から川に潜って魚を獲るという一日コースみたいなのを行っているんですが、子供たちだけでなく親も凄く喜ぶんですよ。30歳代ぐらいのお父さんお母さんたちって川遊びをしていないんですね。だから子供をほったらかしにして親の方が大はしゃぎ。本当にいきいきする親子を見て、教育って凄く大切なんだなと思います。

仁坂●特にあれしちゃだめこれしちゃだめって時代がありましたからね。そんな中で和歌山では都会の学校を中心に体験型の修学旅行を提案し、非常に喜んでいただいています。自然の中で遊びながら体験し何かを学び、民泊などをしながら地元の人たちからも釣りの手ほどきなどを受けたり。そして受け入れている和歌山の人たちも楽しいと喜んでくれています。

内山●それは両者共に楽しいでしょうね。最近はモノの価値観というか豊かさについての感じ方が変わってきているような気がします。先日東京に数日間滞在したのですが、もう故郷って感覚もなくなり、なんだか疲れちゃって。それはなぜだろうと考えると、昔はお金を稼ぐことが全てみたいなところがありましたが、今では環境や暮らし方、心の豊かさを求めているからなんでしょうね。でもそういう人が結構増えていると思います。

仁坂●そして観光から短期滞在、その先にあるのが移住定住だと思います。和歌山では大規模な別荘開発なんかをやっている訳ではないので告知手段がなかなか難しいという問題はありますが、地元の人が温かいので、定着率はもの凄くいいんですよ。地方は物価も安いですし、和歌山で就農するなんていうのも結構楽しいことだと思います。また最近では、都会にいなくてもインターネット回線があればできる仕事もあります。そういう新たな暮らし方が和歌山で見つけられるというPRを積極的に行っています。そしてもっと移住される方が増えればいいなあと思っています。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

水のこと・内山りゅう
循環する水が育む豊かな生態系、そして人々の暮らしや文化、信仰にも深く溶け込んでいる水。そうした力を持つ和歌山の水のさまざまな表情をとらえた写真集。2017年3月発刊。出版社:講談社エディトリアル。

内山りゅう(うちやまりゅう)

1962年、東京生まれ。東海大学海洋学部水産学科卒業。淡水を中心に、水に関わる生き物と、その環境を撮影し続けるネイチャー・フォトグラファー。和歌山の美しい水との出会いにより、1999年白浜町へ移住、現在に至る。

蚊取り線香

Awesome Products in Wakayama 01

a Story of working site

除虫菊と上山英一郎生家

日本の夏といえば、蚊取り線香。その生まれ故郷は和歌山県の有田市って知っていました?大日本除虫菊の創業者、上山英一郎は1862年有田の蜜柑農家に生まれ、高い志を持って上京し慶應義塾で教育を受けた。病で帰郷するも福沢諭吉の紹介で、アメリカ・サンフランシスコで植物輸入会社を営むH.E.アモア氏と出会い、除虫菊の種子を譲り受け、棒状の蚊取り線香を考案、発売する。その後、妻・ゆきの「渦巻き型にすればよいのでは」というアイデアから着想を得、蚊取り線香の燃焼時間の延長に成功。〝金鳥〟という名の蚊取り線香が全世界で広く販売されるようになったのだという。

有効成分(アレスリン)と除虫菊の粉、植物性の糊(のり)等を混ぜ、 さらに緑色の染料と水を加えて練り合わせる。その後シート状に押し出し、機械で渦巻状に型抜きし、網に乗せて風通しのよい乾燥室で2日間自然乾燥すると、二本に組み合わされたおなじみの蚊取り線香ができあがる。

大日本除虫菊株式会社　紀州工場
場所／有田市山田原180
電話／06-6441-0451(本社)

南方熊楠が愛した「おけし餅」

今も変わらない優しい甘さのお餅はちょこんと乗ったあんこが可愛い。

国産の厳選したもち米と北海道産のあずきを使用。蒸したもち米をついた後、仕上げるのは手作業だ。もちの弾力は季節や天候にも影響され、「これだけは手で覚えるしかない」と青木さん。

熊楠が晩年を過ごした田辺市。熊野三山への参詣客で賑わってきた中心市街地の一角に、江戸時代から続く老舗の和菓子屋がたたずむ。名物〝おけし餅〟の店として地元の方々に親しまれてきた〝辻の餅〟だ。

白いお餅の上に、〝ぽてっ〟とつぶあんが乗る。その姿が頭頂部だけ髪を残した江戸時代の子供の髪型、お芥子（けし）頭に似ていることからこの名前がついたという。弾力あるお餅とさっぱりとしたつぶあんの素朴な味わいで、長年愛されてきた。

甘いものに目がなかった熊楠もまた、〝おけし餅〟のファンの一人だったという。「いくつか買っては、懐に入れて持って帰り、近所の子供たちに配ったりもしていたそうです」と辻の餅5代目の青木明（あおきあき）さん。熊楠は歩いて数分の距離にある南方邸で、亡くなる1941年までの25年間を家族とともに過ごした。熊楠の妻・松枝の親戚で南方邸の案内をしている橋本邦子（はしもとくにこ）さんは「子煩悩で長女の文枝さんが幼いころは、文枝さんの小さな足を、自分の足の上に乗せて、たわむれに歩いたりしていたそうです」と話す。そんな親子水いらずのひととき、そのかたわらに、おけし餅があったのかもしれない。

武家屋敷のたたずまいを残す旧南方家住宅は、登録有形文化財として保存、公開されている。縁側にのぞむ部屋には机や顕微鏡が置かれ、ありし日の姿をしのばせる。隣接する南方熊楠顕彰館には、膨大な資料論文が保存されている。

南方熊楠顕彰館・旧邸
住所／田辺市中屋敷町36
電話／0739-26-9909

辻の餅
住所／和歌山県田辺市北新町1
電話／0739-22-1665

南方熊楠生誕150年特別企画 News Topic

その足跡を白浜の地に

南方熊楠の業績を紹介する南方熊楠記念館（白浜町）が、生誕150周年を機にリニューアルオープン！

写真上 >> 森の中をイメージした、明るくゆったりとした新館のエントランス。吹き抜けには、熊楠の書いた文字を印刷した布で織り込んだランプシェードのような巨大なオブジェが設置されている。写真右 >>晩年は病気がちだった熊楠だが、亡くなる間際まで書物の編集や後進の指導に力を入れた。

森羅万象、あらゆることに興味を持ち続けた南方熊楠は、生涯に膨大な数の標本や文書を残した。その74年におよぶ生涯に残した標本や愛用品、直筆の原稿等を保存し、一般の方にわかりやすく公開しているのが白浜町の南方熊楠記念館だ。今年3月には新館が完成、展示スペースを一新し、バリアフリー化を図るとともに英文説明の追加を行った。

南国の木々や、色とりどりの草花がうっそうと生い茂る白浜町臨海地区の吉野熊野国立公園「番所山（ばんしょやま）」。今にもルーペを手にした熊楠が現れそうな雰囲気の森の中から、真新しい白い建物が現れる。曲線的な外観は、熊楠が研究に情熱を傾けた粘菌の姿をイメージしたという。

新館は鉄筋コンクリート2階建て。館内には、その奇想天外な発想力と、探求への途方もないエネルギーを伝える品々約800点を展示している。8歳から17歳まで続けたという江戸時代の百科事典「和漢三才図会（わかんさんさいずえ）」の膨大かつ精密な筆写、おびただしい数のキノコや粘菌の標本、常に持ち歩いたという携帯用顕微鏡、昭和天皇に標本を献上した際にも使われたミルクキャラメルの大箱…。一つ一つが熊楠の情熱や、人柄をうかがわせる。

谷脇幹雄（たにわきみきお）館長は「エコロジーという概念をいち早く提唱するなど熊楠の残した大きな業績を、より多くの人に知ってもらえれば」と話している。

360度のパノラマが広がる屋上展望デッキ。天気のよい日なら、はるか四国まで遠望できる。熊楠が昭和天皇をお迎えした天然記念物の神島もすぐ近くに見える。

「和漢三才図会」の筆写や、手書き文字の並んだ論文には圧倒される。廊下には募金のために書いた「世界一長い」履歴書の複製が。

南方熊楠記念館
住所／和歌山県西牟婁郡白浜町3601-1
電話／0739-42-2872
http://www.minakatakumagusu-kinenkan.jp/

Nanbiri Journal
わかやまに恋した人々
Wakayama

イタリア留学で魅せられた瓶詰食品 きれいな水と野山で育った食材で

田辺市龍神村
金丸 知弘さん
TOMOHIRO KANAMARU
東京都から移住

金丸さんの住む「龍神の家」には、6棟の住宅があり、染色家や映像作家、エアブラシアーチストらが住む。店名の「CONSERVA」は、イタリア語で保存することやジャム、瓶詰などをさすことばという。

村の大半を山林がしめる田辺市龍神村。山道を進むと、モダンなデザインのログハウスが現れる。山村定住促進を目的に建てられたアトリエ付き住宅「龍神の家」。その中の一軒、食品加工販売店「CONSERVA」（コンセルヴァ）には、リンゴとキウイ、イチゴと小豆といった珍しいコンビネーションの自家製ジャムがずらりと並んでいた。

「空気がよくて、水がきれい。周辺を含めて、いろいろな種類のジャムが作れる少量多品種の野菜や果物があるところ。その条件にぴったりなのが龍神村でした」と店を経営する金丸知弘（かなまるともひろ）さんは話す。

食環境ジャーナリストの父の影響で十代から食に感心を持ち、22歳でイタリアの外国人専門料理学校に留学、卒業後も現地の店で働いた。そのとき、無数のジャムやパスタソースなど瓶詰食品の文化に魅せられ、自分でも作ってみたいと思うようになった。

帰国後、東京のイタリア料理店で働きながら、起業するための候補地探しで立ち寄ったのが都内のNPOふるさと回帰支援センター。そこに講演に来た「龍神の家」に住む映像作家との出会いが人生を変えた。誘われて現地見学に来た日、妻のりささんは、歯を磨こうとひと口水をふくんで驚いた。「なんて、すがすがしい水。都会と全然ちがう！」。その後とんとん拍子に移住が決まった。

それから1年余り。ジャム作りや仕込みで、日によっては東京にいたときより忙しいときもある。「それでも全然ストレスがない」と2人。「当初は田舎暮らしに反対だった中学2年の長女が『山があるってほっとするね』って。ほんと、その通りだと思います」と笑った。

都会暮らしからは何もかも一変。今では、どこに行くにも車がないと始まらない。「でも、渋滞がないから運転は快適」とりささん。現在、介護関係のアルバイトをしながら資格取得を目指している。

リラックスした暮らしに 自然と笑顔がこぼれる

天気がよい日には、屋外で過ごすことも多い。すぐそばまで、シカやサルがやってくる。「東京では考えられない環境」と知弘さんは笑う。移住してから刺繍を始めたというりささん。どんなに忙しい日でも、青い山々や鳥の声、川のせせらぎが、ゆったりと一家を包み込んでくれる。

オリーブオイルをたっぷり使った本場イタリア仕込みのフォカッチャなど、焼きたてのパンも人気商品のひとつだ。

本場イタリア仕込みのパンは 土日月の限定販売

小さなテーブルがあり、カフェも楽しめる。コーヒーや紅茶のほか、リンゴンベリージュース、うめジュースなどドリンクも揃え、2人で店を切り盛りする。店の棚やテーブルは、地元の木材を使って知弘さんが作った。

CONSERVA（コンセルヴァ）
住所／田辺市龍神村小家972-36
電話／080-4972-3760

かんきつ類からベリー系、キウイまで、さまざまな果物をミックスした主力商品のジャムは、季節によって中身も変わる。このほか輸入食品やスパイスの量り売りもしている。

わかやまでの日々の暮らしとまちブラ日記

「龍神地釜とうふ工房　るあん」は、昔ながらの製法を守る豆腐店。カフェも人気。

緑の中にひっそりと佇む「味工房　梅樹庵」は地元の南高梅を使ったドレッシングでも有名なお気に入りのカフェ。

近くの「がまの湯」は自宅のお風呂代わりによく利用しているのだとか。

龍神温泉は日本三美人の湯として知られる温泉郷。「旅館　上御殿」は、風情あるたたずまい。

家のすぐ近くを清流が通る。夏になれば、水遊びが楽しめる。長女の大のお気に入りのスポットだ。

緑の山間をぬうように走る日高川。春には桜、藤の花、秋になれば紅葉が。一年を通して木々や花が山を彩る。

龍神村の緑の美しさに、身体も心も癒されます

裏庭にはイタリアンパセリやローズマリーなどさまざまなハーブを植えている。店で販売するパンやジャムに使うことも。家庭で使うバクチーやカラシナも育てている。

受け入れ施策 Come on!

金丸さんが訪れた東京・有楽町のふるさと回帰支援センター内には、わかやま定住サポートセンターがあり、移住者向けのイベントや現地体験会の募集も行っている。このほか、移住をサポートする支援制度も充実。金丸さん夫婦は移住の際、家族構成などに応じて最大250万円が交付される若年移住者暮らし奨励金の制度を利用した。

詳しくは
https://www.wakayamagurashi.jp/how-to/support/

2018年 明治維新 the Restoration 150th

和歌山の明治維新を訪ねて

灯台内部は非公開だが、外部階段から灯台に登ることができる。国の登録有形文化財に指定されている旧官舎内部の見学は可能。

明治という新しい時代を照らす日本で初めての石造り灯台

エルトゥールル号遭難事件で有名な樫野埼灯台は〝日本の灯台の父〟と呼ばれるスコットランド出身の技師R・H・ブラントンが設計し、1870（明治3）年に点灯した日本最初の石造灯台である。大政奉還を翌年に迎えた1866年にアメリカやイギリスなど4国と結んだ〝江戸条約〟によって建設された8ヶ所のひとつで、新しい時代の海を明るく照らす重要な灯台であった。現在も現役の航路標識（灯台）である。

江戸条約で建設されたもうひとつの潮岬灯台まで車で約20分。和歌山の海が当時の海上交通の要であったのが分かる。

Data ▸樫野埼灯台

住所／東牟婁郡串本町樫野1006-1
電話／0735-65-8515（樫野埼灯台旧官舎）

明治後期以降、全国に普及していった水銀槽式回転機械装置の全体像を知ることができる現役の灯台で、（一社）日本機械学会の機械遺産に認定されている。

交通アクセス
- ●羽田空港から南紀白浜空港まで約1時間10分
- ●和歌山市まで
  関西国際空港からバスで 約40分
  大阪市内中心部から車で 約1時間

■取材をバックアップします！

和歌山県では、メディア関係の皆様に
取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

お問い合わせ

■和歌山県広報課
TEL. 073-441-2032　FAX. 073-423-9500
e-mail／nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp

■わかやま紀州館
東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館B1F
TEL. 03-3216-8000　FAX. 03-3216-8002
e-mail／kishukan@wakayama-kanko.or.jp

和歌山県フォトライブラリー（写真貸出）
http://www.pref.wakayama.lg.jp/photo/

和歌山県動画提供
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/media/

和-nagomi- バックナンバー
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/nagomi/

和歌山応援団 求む!

ふるさと和歌山応援寄附

和歌山県の「ふるさと納税」がとってもお得にパワーアップ！

1万円以上の寄附で、和歌山を味わえる「梅干し」や「醤油」など、プレミア和歌山の商品41品の中から贈呈！ 詳しくは、下記サイトをご覧ください。

※郵便局、クレジットカードもご利用可能です。
http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/

和歌山　人・もの・地域
和-nagomi
2017 vol.33

企画・発行／和歌山県
発　行　日／平成29年7月21日
企画編集／サンケイ広告（株）
制　　作／（有）YS'pros
印　　刷／中和印刷紙器（株）

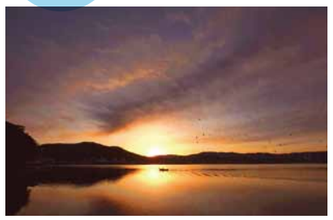
「和-nagomi-」は、古紙配合率70%以上の再生紙、大豆油インキを用いて制作しています。

祝! 日本遺産“W（ダブル）”認定!!

［和歌の浦・紀州湯浅］

旬の和歌山情報をお届けします
2017 vol.33

Topics 1. 絶景の宝庫　和歌の浦



和歌の浦は和歌川の河口に広がる干潟を中心に、南は熊野古道の藤白坂から、西は紀伊水道に面する雑賀崎までの、和歌浦湾を取り巻く景勝地です。万葉の時代にこの思わず持ち帰りたいほどの情景が和歌にうたわれ、和歌の神がまつられ、唯一無二の和歌の聖地となりました。潮が満ち干潟から鳥が飛び立つ様、春霞の干潟越しにみる寺社を抱く山並み、紅葉の峠越しに見下ろす波穏やかな入り江など、絶景の宝庫である和歌の浦。自然と文化が調和した和歌の浦の絶景は、日本人の精神文化の源ともいえる和歌に始まり、いつの時代も人々を魅了し、様々な芸術を育んできました。

中世末、紀州攻めの際に古来の景勝・和歌の浦を遊覧した豊臣秀吉は、その名にちなんで北方の岡山に建てた城を和歌山城とし、その城下が和歌山とよばれるようになりました。「和歌」の名は、現在の県名にまで引き継がれています。

問い合わせ／【ストーリーについて】和歌山県観光振興課　電話／073-441-2424
【申請・認定について】和歌山県文化遺産課　電話／073-441-3740

Topics 2. 「最初の一滴」醤油醸造の発祥の地　紀州湯浅

産業としての醤油造りは紀伊半島西岸、紀州湯浅で産声をあげました。

鎌倉時代、宋に渡った禅僧覚心が帰国してから、今日ある金山寺味噌の祖である径山寺味噌の製法を人々に伝授し、湯浅で盛んに作られるようになりました。味噌を造る過程で、野菜から染み出し桶に溜まった水分を、それまでは捨てていましたが、あるとき、その一滴を掬ってなめてみると芳醇な味がしました。この旨みに満ちた汁で魚や野菜を食べれば、美味しいに違いないと考えた湯浅の人々が工夫を重ねた結果、現在の醤油が生まれたといわれています。

醤油の醸造業で発展した湯浅の町並みには、醸造業に関連する町家や土蔵が立ち並びます。町家の屋根は丸い瓦の重厚な本瓦葺きで、庇の先には幕板と呼ばれる雨除けの板が下げられます。ほかにも、虫籠窓や袖壁といった防火構造の意匠も見られ、湯浅で醤油醸造を営む人々の暮らしぶりが、建物の特徴となって表れています。

問い合わせ／和歌山県文化遺産課　電話／073-441-3740

シズル感溢れた〝感動的〟なシャーベット

蓋を開けた瞬間、誰もが〝うわ〜っ、あらかわの桃が〟と驚き、一口食べると濃厚な甘さが広がる。「単純に美味しいだけでなく、記憶に残るようにしっかりとした甘さと、あらかわの桃の瑞々しい素材感を大切にしました」と語るのは、株式会社カワ・セントラル工場の工場長、町山恵留夫（まちやまけるぶ）さん。

見た目もこだわり、桃のコンポートが沈み込んでしまわないようにまずシャーベットを急速冷凍するなど、ひと工夫も忘れない。

和歌山県産の果実を使った〝実（みのり）〟シリーズは、桃以外にも干し柿や南高梅など全6種ある。「社長も私も職人なので、商品の開発力には自信があります」と胸を張る。

一六一八（イチロクイチハチ）実 -minori-（あらかわの桃）

生産者／株式会社カワ　セントラル工場
住所／有田郡広川町柳瀬472−3
電話／0737-65-2600
通販サイト“一六一八”で販売　http://www.wakayama1618.com/

和歌山と大阪で30店舗を展開する株式会社カワのセントラル工場では、OEMで多くの商品を製造している。自社ブランドの〝一六一八〟は、〝人間が最も美しくバランスが取れていると感じる黄金比から名付けられた。写真右が工場長の町山さん。左が営業アシスタントの岩橋さん。

プレミア和歌山

和歌山県優良県産品（プレミア和歌山）推奨制度
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならでは”の視点で推奨する。

プレミア和歌山　検索

残間里江子審査委員長
和歌山は自然豊かで、おいしいものがたくさんあります。毎回審査が楽しみです。

和歌山のスーパーアイドル、
ニタマちゃんとパンダちゃんたちの
近況報告 vol.04

nitama&pandas 元気日記！

ぼくが和歌山からレポートするよ！

和歌山県PRキャラクター
「きいちゃん」

たま駅長生誕18周年 世界のGoogleロゴに！

やっぱりたま駅長はすごいにゃー。たま駅長を見習ってお仕事頑張るにゃー！

三毛猫駅長として親しまれた名誉永久駅長「たま」の生誕18周年にあたる4月29日に世界のGoogleのトップページが1日限定で、たま駅長生誕18周年特別記念ロゴマークになりました。この特別記念ロゴマークは日本を含む世界12カ国のトップページのロゴマークとして採用されたとのことです。

お問い合わせは、
和歌山電鐵
（TEL.073-478-0110）へ。
駅長たまのツイッター
@ekichoTAMA
貴志駅には駐車場はありません。
伊太祈曽駅のパーク&ライドをご利用頂くと便利です。

誕生日に合わせて、和歌山市と紀の川市の新小学1年生を対象に、貴志川線が土日祝祭日乗車運賃無料となるパスをプレゼント。

永明とうさんありがとう！ 14頭の父親パンダに感謝！

6月18日の「父の日」。白浜アドベンチャーワールドでは同園で生まれた14頭の父親である雄のジャイアントパンダ「永明（えいめい）」に氷や大好物の竹、笹の葉などが入った特製のサンドバッグがプレゼントされました。

永明は現在24歳で、人間の年齢でいえば70歳を超える父親としては世界最高齢のジャイアントパンダといわれるものの、食欲も旺盛で、この日も足腰のトレーニングになるようにとプレゼントされた特製サンドバッグで元気に遊んでいました。

昨年9月に誕生したメスのジャイアントパンダ「結浜（ゆいひん）」が、3月25日、お母さんパンダの「良浜（らうひん）」と一緒に屋外運動場にデビューしました。病気やけがもなく順調に成長しています。

お問い合わせは、
アドベンチャーワールドインフォメーション
（ナビダイヤル.0570-06-4481）へ。
公式ツイッター @aws_official
ホームページ http://aws-s.com/

「和-nagomi-」WEB版がご覧いただけます　和歌山県　なごみ　検索

和歌山県ホームページ　http://www.pref.wakayama.lg.jp/

2017年7月21日発行（年3回発行）
企画・発行／和歌山県 広報課「和-nagomi-」編集部 〒640-8585 和歌山市小松原通1-1 TEL.073-441-2032 E-mail nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp